

公務災害防止について

資料 1	福岡県支部における公務災害・通勤災害認定状況・・・・・・・・・・	1
資料 2	地方公務員災害補償基金福岡県支部ホームページ・・・・・・・・・・	2
資料 3	主な報告事例（各所属の報告から）・・・・・・・・・・	4
資料 4	ヒヤリハット事例集・・・・・・・・・・	9
資料 5	公務災害防止関係視聴覚教材（DVD）貸出事業・・・・・・・・・・	29
資料 6	その他・・・・・・・・・・	41

平成30年度認定分

1. 福岡県支部における公務災害・通勤災害認定状況

	公務災害	通勤災害	計
県	419	16	435
市町村・一部事務組合	123	18	141
合 計	542	34	576

2. 福岡県支部における公務災害認定事案発生状況(全職種合計)

事故形態別

事故形態	平成30年度	
	件数(件)	割合(%)
墜落・転落	40	7.4%
転倒	62	11.4%
激突	122	22.5%
飛来・落下	16	3.0%
激突され	5	0.9%
はさまれ、巻き込まれ	32	5.9%
切れ・こすれ	22	4.1%
踏み抜き	6	1.1%
高温・低温の物との接触	3	0.6%
有害物質等との接触	2	0.4%
感電	0	0.0%
火災	0	0.0%
交通事故(道路)	20	3.7%
動作の反動、無理な動作	132	24.4%
故意の加害行為	8	1.5%
汚染血液による事故	12	2.2%
爆発	3	0.6%
その他	57	10.5%
合 計	542	100.0%

(参考)平成29年度

件数(件)	割合(%)
30	4.9%
98	16.1%
85	14.0%
31	5.1%
10	1.6%
38	6.2%
30	4.9%
1	0.2%
3	0.5%
7	1.1%
1	0.2%
1	0.2%
29	4.8%
158	25.9%
9	1.5%
12	2.0%
0	0.0%
66	10.8%
609	100.0%

傷病別

傷病名	平成30年度	
	件数(件)	割合(%)
骨折	166	30.6%
打撲・挫傷	111	20.5%
創傷(擦過傷含む)	80	14.8%
刺傷	12	2.2%
火傷	6	1.1%
靱帯、腱断裂	84	15.5%
捻挫(腰痛を除く)	39	7.2%
神経損傷	0	0.0%
脳疾患	1	0.2%
呼吸器疾患	2	0.4%
肝臓疾患	0	0.0%
腰痛	5	0.9%
皮膚炎	0	0.0%
耳疾患	1	0.2%
眼疾患	2	0.4%
その他	33	6.1%
合 計	542	100.0%

(参考)平成29年度

件数(件)	割合(%)
173	28.4%
140	23.0%
81	13.3%
14	2.3%
5	0.8%
98	16.1%
51	8.4%
1	0.2%
0	0.0%
2	0.3%
1	0.2%
2	0.3%
3	0.5%
0	0.0%
0	0.0%
38	6.2%
609	100.0%

資料2

◎地方公務員災害補償基金福岡県支部ホームページ

地方公務員災害補償基金福岡県支部では、ホームページを開設しています。
是非ご活用ください。

地方公務員災害補償基金 福岡県支部ホームページ

<http://fukuoka-chikousaikikin.jp>

請求に必要な様式、研修会テキストのほか、認定の事例、Q&Aも掲載しています。こんなときどうするのかなどというときに・・・

← → <http://fukuoka-chikousaikikin.jp/prevention.html> 地方公務員災害補償基金 ... x

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

地方公務員災害補償基金 福岡県支部

地方公務員災害補償制度の概要

職場で災害が発生したら

公務災害・通勤災害様式集

公務災害事務担当者の手引き(研修資料)

公務災害防止対策

認定事例集

Q&A よくある質問

リンク

お問い合わせ先

地方公務員災害補償基金
福岡県支部
〒812-8577
福岡市博多区東公園7-7
福岡県総務部
総務事務厚生課内
TEL 092-643-3031
FAX 092-633-3438

公務災害防止対策について

当支部では、災害のない安全な職場づくりのために、公務上の災害の未然防止に向けた取組として、公務災害防止事業を実施しています。

公務災害防止対策実施報告

各任命権者は、発生した公務災害について発生原因を分析・検証し、災害防止対策を講じ、その内容について支部長に報告していただく必要があります。
関係通知や報告書の様式は、次のとおりです。

- ・公務災害防止対策実施要領の改正について(通知文)
- ・公務災害防止対策実施要領
- ・公務災害防止対策実施報告書作成要領
- ・様式第1号その1・様式第2号(知事部局用)
- ・様式第1号その2・様式第2号(政令市及び組合立を除く学校用)
- ・様式第1号その3・様式第2号(一般の任命権者用)
- ・記載例

支部長は、報告された公務災害防止対策の中から効果的な防止事例を紹介し、公務上の災害を防止する対策を普及させ、公務災害発生抑制につなげます。

- ・防止対策の主な報告事例(平成27年度分)
- ・防止対策の主な報告事例(平成26年度分)
- ・防止対策の主な報告事例(平成25年度分)
- ・防止対策の主な報告事例(平成24年度分)
- ・防止対策の主な報告事例(平成23年度分)
- ・防止対策の主な対策事例

発行図書

地方公務員災害補償基金が作成した、ヒヤリハット事例集等を紹介します。
各職場での啓発や研修に御活用ください。

- ・公務災害防止啓発ポスター(平成28年福岡県支部発行 855KB)
- ・公務災害防止啓発ポスター(平成27年福岡県支部発行 930KB)
- ・公務災害・過重労働防止啓発リーフレット(平成26年福岡県支部発行 3,602KB)
- ・公務災害防止啓発ポスター(平成25年福岡県支部発行 650KB)
- ・ヒヤリハット事例集 一般事務職場編・清掃事業場編(平成21年2月)
- ・病院等における災害防止マニュアル～針刺し切創防止版(平成22年2月)
- ・ヒヤリハット事例集 水道事業・下水道事業編(平成22年2月)
- ・ヒヤリハット事例集 学校給食事業編(平成23年2月)
- ・ヒヤリハット事例集 保育事業編(平成24年2月)
- ・教育職員の公務災害(小学校の現場に向けて)リーフレット
- ・教育職員の公務災害(中学校の現場に向けて)リーフレット
- ・教育職員の公務災害(高等学校の現場に向けて)リーフレット
- ・教育職員の公務災害(特別支援学校の現場に向けて)リーフレット
- ・公務災害防止に関する発行資料の紹介
- ・視聴覚教材の貸出について

地方公務員災害補償基金福岡県支部

平成30年度より、公務災害防止対策のための視聴覚教材(DVD)貸出についても掲載しています。
また、よくある事例のカラー(又は2色)イラスト、対策のアドバイスなどを載せた地方公務員災害補償基金発行のヒヤリハット事例集も掲載しています。

◎地方公務員災害補償基金ホームページ

地方公務員災害補償基金ホームページでは、法令・通達その他、多くの資料が掲載されています。ご活用ください。

地方公務員災害補償基金ホームページ（基金本部のホームページ）

<http://www.chikousai.go.jp>

The screenshot shows the homepage of the Local Government Employees' Accident Compensation Fund. At the top, there is a navigation bar with links for Home, Text Size (Small, Standard, Large), and a search bar. Below this is a main menu with three categories: Fund Business, Legal Information, and Laws/Regulations/Forms. A callout box points to the 'Fund Business' link, stating: 'カーソルを「基金の業務」に合わせて、メニューが表示されます。「公務災害防止」を選択してください。' (Move the cursor to 'Fund Business' and the menu will be displayed. Please select 'Public Disaster Prevention'). Another callout box points to the 'Public Disaster Prevention' link in the sub-menu, stating: '発行図書をクリックすると、ヒヤリハット事例集のほかに、基金発行の様々な資料、リーフレットが掲載されています。災害防止、安全衛生にご活用ください。' (Clicking on the publication booklet will display, in addition to the Hysteria Casebook, various materials and leaflets published by the fund. Please use them for disaster prevention and safety and health).

地方公務員災害補償基金
Fund for Local Government Employees' Accident Compensation

ホーム 文字サイズ 小 標準 大

更新情報 アクセス・連絡先 サイトマップ

基金の業務 法人情報等 法令通達・様式集

トップページ > 基金の業務 > 公務災害防止事業

公務災害防止事業

公務災害防止事業の事業概要・事業内容

地方公共団体における労働安全衛生活動レポート(別ウィンドウ)

公務災害防止事業の発行図書

発行図書をクリックすると、ヒヤリハット事例集のほかに、基金発行の様々な資料、リーフレットが掲載されています。災害防止、安全衛生にご活用ください。

基金からのお知らせ 基金支部一覧 関係機関リンク 基金ホームページについて 個人情報保護について

地方公務員災害補償基金

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1平河町森タワー8階 TEL03-5210-1341(総務課)

法人番号9010005002577

アクセス・連絡先

お問い合わせ

資料3 《主な報告事例》

福岡県支部における各所属から提出された公務災害防止対策の主な報告事例を紹介します。

職場での公務災害防止対策にお役立てください。

災害の概要	公務災害防止対策の内容
職員室で <u>床にある</u> 電源ケーブルの突起物(鉄製)に左足をぶつけて打撲した。(教員)	○床にある鉄製の突起について、改めて全職員に注意喚起した。 ○突起物にテープを貼り、滑らかにして段差をなくした。
<u>脚立に登って</u> 木の枝を剪定していたところ、バランスを崩して転倒し、右手を骨折した。(教員)	○高所での作業、危険を伴う作業する際は、必ず複数人で行い、脚立を固定するよう指導した。
体育祭の救護活動中に担架を準備していたところ、金具で右手親指を <u>挟み、負傷</u> した。(養護教諭)	○日頃使用していない予備担架を含めて、定期的に留め金具等の点検・整備を行うこととした。 ○担架を使用する可能性がある行事の前には必ず、予備を含め動作確認を行うこととした。
トイレが詰まって水浸しになっていたため、掃除をしていたところ、右足を <u>滑らせ</u> 身体のバランスを崩して転倒し負傷した。(教員)	○トイレマットを設置した。 ○清掃後は特に滑り易いので、トイレの壁に注意喚起する目立つ表示を設置した。 ○教職員に対して、滑りにくい履物を履くように指示した。
黒板前に2つ設置された教壇に上がり、授業を行っていたところ、高さが異なっていたため境界の <u>段差に躓き</u> 、バランスを崩し転倒し負傷した。(教員)	○災害発生後すぐに、同じ高さの教壇に入れ替え、段差をなくした。
<u>結露で滑り易く</u> なった廊下で左足を滑らせて捻り負傷した。(教員)	○清掃時間に乾拭きを呼びかけ、湿気を拭き取るようにした。 ○雨の日や湿度の高い日は、休み時間等に「廊下を走らない」「廊下が濡れていて滑り易いので注意すること」と、校内放送で呼びかけをするようにした。 ○廊下に注意喚起するポスターを掲示した。
分場内の茶園で作業後、乗っていた摘採機が <u>バランスを崩し転倒</u> した際に、コンクリートの道路上に飛び降りたところ、右肩から落下し負傷した。(労務職員)	○所属全員に分場内全体を対象に、労働安全上危険な場所の洗い出しをした。 ○危険箇所・通路に遮断物(鉄パイプを打ち付け、赤く目立つコーン)を設置し、摘採機を含むすべての農業用車両の出入り物理的に不可能となるようにした。
防疫業務で乳用牛の採血等を行っていたところ、採血していた牛から <u>蹴られ</u> 負傷した。(技師)	○検査頭数に応じた出張人員を確保する。 ○飼養農場の状況を十分把握し、対象牛の保定・採血手順を打ち合わせしたのち、作業を開始する。 ○対象牛の確保(補助)者を複数名配置し、牛の制御ができてから一頭ずつ作業を実施する。 ○採血者など牛に接近する作業者は、プロテクターの装着が必要とした。
施設の行事で使用したU字ブロックに <u>躓き、前方に転倒し</u> 、左手をついた際に負傷した。(支援員)	○通路で歩行の妨げになるような機材等は、当日に全て片付ける。 ○通路に照明がないので、人感センサー付き照明を4台設置した。
建物火災に出動し、消防活動のためホース延長作業等を行っていたところ、体調が悪化し <u>熱中症等を発症</u> した。(消防職員)	○各職員の体調管理の徹底及び体調不良時の早めの報告の徹底。 ○出勤時における現場到着までの水分補給及び塩分補給を積極的に行う。 ○現場活動時は、活動隊員のローテーションを可能な限り実施し、休息を与える。 ○職務遂行のための体力維持を図るため、最低限の体力錬成を実施する。 ○防災衣の中に入れる保冷剤を準備し易くするために、車庫内に冷蔵庫を移設した。

災害の概要	公務災害防止対策の内容
排水溝のゴミを除去するために、グレーチングを外そうとしたところ、 <u>勢い余って転倒し</u> 、グレーチング間に <u>指を挟み</u> 、指を切断した。(教員)	○グレーチング専用フックの整備、保護具の着用、施設の日常点検を実施した。
清掃中、石段に <u>足を引っかけて転倒し</u> 、手をついた時に左手を骨折した。(教員)	○階段の淵に段差明示テープを貼った。
廊下を歩行中、降雨対策として常設している屋外用マットの端に <u>躓き転倒し</u> 、右膝を挫創した。(実習助手)	○外れていた屋外用マットの縁駒等を取り付け、補修を行った。
体育館壁面設置の梯子で2階から1階へ降りる時に、 <u>バランスを崩し後ろ向きに落下</u> 、右手を打ち骨折した。(教員)	○伸縮式梯子の使用を徹底させた。 ○伸縮式梯子を使用し必ず二人以上の職員で十分安全確保を行うよう全職員に周知した。
木製すのこを敷いた廊下を歩行中、前を歩く職員が踏んだすのこの後方部分が浮き上がり、それに <u>躓き転倒し</u> 、手を捻挫した。(養護教諭)	○すのこ間の隙間をなくし、反り返って浮き上がるものについては、すのこ同士を紐で結びつけ固定した。
運搬作業中、地面に引かれていた電源コードにキャスターが引っかかり、運搬物を持ち上げたところ、 <u>手が滑って足に落下し</u> 、挫創した。(教員)	○電源コードの配置を変更し、運搬や通行の妨げにならないようにした。 ○重量のある運搬物は4名で運搬するように変更した。
工事の実地査定を受けていた際に、河川堤防の法面を降りようとしたところ、 <u>足を滑らせて落下し</u> 、岩に胸を強打して負傷した。(技師)	○幹部職員会議及び所内連絡会議で注意喚起を行った。 ○現場では、ヘルメット、長靴、作業着着用の徹底とともに、足場の安全確認についても徹底させることとした。
出張のため、急いで外に出ようとした際、ガラス張りの扉が閉まっていることに気づかず <u>衝突し</u> 、顔面を強打し骨折した。(技師)	○ガラス張りの扉に、半透明のテープを目線の高さに貼ることで、ガラス戸があることに気づきやすくさせた。
倉庫内の清掃中、鋏置き場にかけてあった鋏が <u>落下してきて</u> 、頭部にあたり負傷した。(技術主査)	○鋏などは、通行の少ない場所の床に置くことにした。 ○ビニル紐で鋏の柄を押さえることで、倒れないようにした。
柑橘の施肥作業を行っていたところ、 <u>スズメバチに襲撃され</u> 、背部を刺され負傷した。(主任技師)	○スズメバチの巣を撤去後、近隣に営巣していないか確認する。 ○死角となる場所に蜂が営巣していないか、日頃から注意する。 ○蜂の飛来が多い時には、作業を中断し、チーム長又は部長に報告する。 ○蜂に刺された場合は、速やかに毒を吸引し、事故の発生を報告するとともに、病院で治療を受ける。
ナースステーション内の傾いていた感染性廃棄物処理容器を戻そうとして、蓋から出ていた <u>針が指先に当たり</u> 負傷した。(看護師)	○感染性廃棄物ボックスの収納場所を変更した。 ○感染性廃棄物ボックスに触れる際は、安全性を確認した上で、ボックスの下半分に触れるよう周知した。
病院で検査のため、患者の腹部に注射器で少量の腹水を吸引し針を抜く際、顔面に <u>腹水が曝露</u> した。(医師)	○腹腔穿刺を行う際にはゴーグルを着用し、眼を防御することにした。

(平成30年度追加分)

災害の概要	公務災害防止対策の内容
<p>教室後方の壁の掲示物を貼り替えるため、児童用椅子を介して収納棚に登って作業終了後、<u>棚から降りようとして、足を踏み外し</u>、床へ転落、上肢を骨折等したもの。(教員)</p>	<p>○掲示作業を行う際には、棚上の整理を行い、足下に物が無いようにする。 ○掲示作業を実施の際は隣接学級の担任に知らせておく。 ○棚への乗降は、できるだけ他職員による補助を行う。 ○高所での作業は無理をせず、他職員の協力を依頼する。</p>
<p>児童の登下校の降車指導の際、昇降口に設置してある<u>車いす用スロープで足を踏み外し</u>転倒、下肢を骨折等した。(教員)</p>	<p>○スロープが目立つように色テープを貼り、貼り紙等で注意喚起をする。</p>
<p>給食室内で缶を両手に抱えて移動中、<u>足を滑らせ</u>転倒、後頭部に打撲を負った。(給食調理員)</p>	<p>○床及びグレーチングが濡れたら即時拭き取る。 ○滑りにくい靴を着用する。 ○滑りにくいグレーチングに変更する。</p>
<p>校内におけるハンドボール部の練習中に、<u>膝に生徒の体があたり</u>、靱帯を損傷した。(教員)</p>	<p>○組織的練習において、生徒との距離をおいた指導をすることとした。 ○同じ事故を繰り返さないために、生徒指導委員会で怪我の状況を説明し、怪我防止について協議すると共に、練習前の施設点検、健康観察、準備運動の実施、指導時の安全確認について、運動部活動顧問者会で確認した。</p>
<p>空調機械室から退室しようとした際、<u>壁に立て掛けていた脚立にドアが引っ掛かり、倒れてきた脚立が頭部にあたり</u>、負傷した。(事務)</p>	<p>○脚立の保管位置を変更した。その他の機材の配置を見直した。</p>
<p>公用車の後部座席に乗車する際、スライドドアを開けようとした際、<u>手を運転手ドアの部分に置いたところ、それに気づかなかつた運転手がドアを閉め</u>、手を挟まれ、手指を骨折した。(技師)</p>	<p>○不必要に手を置かない。手を置く時は、急いでいても安全な場所に置くようにする。 ○ドアを閉める時は、周囲に人がいないかを確認する。</p>
<p>会議の後片付けのため、机の上に重ねて置いていた仕切りを移動させようとしたところ、仕切りが<u>想定以上に重く、落としそうになり</u>、手指関節を捻挫した。(事務)</p>	<p>次の点に注意し、慎重に対応すると共に、室内に注意事項として掲示した。 ○仕切りは2名以上で移動させることとし、その際は各人が両手でしっかり支え、声をかけて合図すること。 ○仕切りを重ねて置くことは落下の危険があるため禁止し、邪魔にならない床に置くこと。</p>
<p>バドミントン部のウォーミングアップ中、シャトルを打ち返そうと<u>後方へ一歩飛んだ際、片足に負荷がかかり</u>、アキレス腱を断裂した。(教員)</p>	<p>職員会議において、下記の注意喚起を行った。 ○運動部活動に参加する場合には、事前に運動のできる体力・身体づくりを行うこと。 ○普段から適度な運動をしていない職員が運動部活動の練習に安易に参加しないこと。 ○運動前の準備運動を徹底すること。 ○事前に予想される危険行為の対処方法を把握しておくこと。 ○災害発生時の緊急連絡先について、部活動ごとに確認しておくこと。</p>
<p>机の運搬作業中に、<u>腰に過大な負荷がかかり</u>、腰を負傷した。(事務)</p>	<p>○やむを得ず重い物を運搬する際は、身体に負担がかからないように大人数で作業を行う。</p>
<p>トラック荷台に備えつけた動力噴霧機にガソリンを補充するため、他職員と2名で作業していたところ、<u>他職員が持ち上げたガソリン携行缶の給油ホースからガソリンが吹き出し</u>、両眼等を負傷した。(事務)</p>	<p>○複数人で一緒に作業を行う際には、同様の事例が発生しないよう互いに声を掛け、作業における連携や注意喚起をさらに意識するようにした。</p>

公務上死亡災害発生事例（全国的事例）

【事例1】 炎天下において作業し、帰宅後に熱中症により死亡する

団体区分：都道府県 職員の区分：その他の職員
年 齢：40歳代 災害発生年月：平成27年8月
傷 病 名：熱中症による虚血性心疾患

（概要）

作業場で断水が発生したため、外気温33～36度の炎天下の中、長時間往復し、水やり作業を行った。帰宅後、翌日同僚に発見されるまでの間に、自宅にて死亡した。

（対策）

- 1 熱中症の予防対策（十分な睡眠、こまめな水分・塩分補給、休憩時間の確保、通気性・透湿性の高い服の着用等）を周知し、さらに、少しでも気分が悪いと感じた時は我慢せずに、冷房の効いた部屋等で休息をとるように周知した。
- 2 役職者会議や勤務開始時の朝礼等、機会があるごとに熱中症による事故防止の周知徹底を図っている。特に衛生委員会では、熱中症ハンドブックを作成し、職員へ配付した。

【事例2】 ごみステーションへの移動時に、荷台から転落する

団体区分：市町村等 職員の区分：清掃事業職員
年 齢：50歳代 災害発生年月：平成27年5月
傷 病 名：急性硬膜外血腫、頭蓋骨骨折、左鎖骨骨折、前額部挫傷

（概要）

市内のごみステーションでごみの収集を終え、次のごみステーションに向かうため、同僚が運転する車両の荷台に乗り発車したところ、荷台から転落して頭部等を強打した。救急搬送されたが、7日後に死亡した。

（対策）

- 1 職員全員に対し車両移動時には運転席または助手席に乗ることを徹底した。
- 2 荷台上にて作業を行う際には、車両を停止させ墜落時保護用の保護帽を着用することを徹底した。
- 3 毎朝、ツール・ボックス・ミーティングを実施するよう徹底した。

【事例3】 地区運動会の準備作業中に転落し、救急搬送される

団体区分：市町村等 職員の区分：その他の職員
年 齢：40歳代 災害発生年月：平成29年12月
傷 病 名：急性脳腫脹

（概要）

被災職員は、地区運動会の準備作業のため、校舎2階ベランダで作業中、ベランダ柵外側の底に落としたカッターを拾おうと柵を乗り越えて着地した際に、足を滑らせ転落、頭部からコンクリート地面に落下した。救急搬送されたが当日死亡した。

（対策）

事故後に開いた緊急課長会で各課長から職員に注意するよう呼びかけることとし、安全衛生委員会で今後の防止対策を話し合った。
また、職員に対し、公務災害防止に関する注意喚起を行った。

【事例4】 採水作業中、浄化槽に転落し死亡する

団体区分：市町村等 職員の区分：電気・ガス・水道事業職員
年 齢：50歳代 災害発生年月：平成28年9月
傷 病 名：窒息（溺水の吸引による）

（ 概 要 ）

被災職員は、夜勤後、毎朝実施している水質検査を行うため、1人で浄化槽に近づき採水作業を行っていた際、誤って水深4メートルの浄化槽に転落し死亡した。

（ 対 策 ）

事故現場については、労働基準監督署の許可を得た上、ポールと安全帯を設置した。また、所内の全設備を総点検し、随時改修を行っている。

【事例5】 作業中にレッカー車が転倒し、車体とガードレールの間に挟まれる

団体区分：都道府県 職員の区分：その他の職員
年 齢：30歳代 災害発生年月：平成26年8月
傷 病 名：低酸素脳症

（ 概 要 ）

被災職員は、防災訓練の一斉放水の練習のため、土のうで川をせき止める作業を行っていたところ、土のうをつり上げていたレッカー車が転倒し、クレーンの操作をしていた被災職員が逃げ遅れて、ガードレールとレッカー車の間に挟まれ死亡した。

（ 対 策 ）

移動式クレーンを使用する場合には、決裁の際に作業計画書の提出を義務づけることを総務部長名で通達した。

【事例6】 河川パトロール中に誤って川へ転落する

団体区分：都道府県 職員の区分：その他の職員
年 齢：60歳代 災害発生年月：平成27年8月
傷 病 名：くも膜下出血

（ 概 要 ）

河川パトロールのため1人で現場を巡回中、管理用通路を徒歩で移動していた際に、誤って川底に転落し、くも膜下出血により死亡した。

（ 対 策 ）

- 1 ヘルメットの着用、パトロールに適した服装・履物等の着用を徹底した。
- 2 高所でのパトロールは複数の職員で実施することとした。
- 3 パトロール前に体調等の聞き取りを十分に実施することとした。
- 4 不測の事態に備えて、連絡方法を確認することとした。

公印省略

30総厚第17694号
平成30年12月20日

本庁各課（室）長 } 殿
各出先機関の長 }

総務部総務事務厚生課長
(公務災害班・健康管理班)

公務災害の防止等について（通知）

日頃から、所属職員の安全及び健康の確保並びに快適な職場環境の形成に御尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、冬季になり、凍結による転倒、交通災害等の冬特有の事故や、年末年始、年度末に向けた慌ただしさの中での注意力の散漫等による事故が発生しやすい時期を迎えました。

つきましては、職員の健康管理に十分注意を払い、引き続き、安全に対する意識の啓発に取り組まれるとともに、公務災害が発生した場合は、その原因を分析して未然防止対策を講ずるようお願いします。

なお、安全に対する意識の啓発については、ヒヤリハット事例集の活用や、所属で発生したヒヤリハット事例*の収集・整理等により、継続的に取組まれるようお願いします。

※ヒヤリハット事例：災害には至らなかったもののヒヤリとした事故

記

1 添付書類

(1) ヒヤリハット事例集 一般事務職場編（一部のみ抜粋）

詳細は、地方公務員災害補償基金福岡県支部のホームページをご覧ください。

URL：<http://fukuoka-chikousaikikin.jp/prevention.html>

(2) 様式例「ヒヤリハット事例一覧表」

(3) ヒヤリハット事例一覧表の活用方法

【問合せ先】

総務事務厚生課

公務災害班 内線：2138

健康管理班 内線：2220

ヒヤリハット事例一覧表

平成 年度

No.	課(係・班)名	発生日	場所	概要	原因	不可避・ 防止可能	防止対策
(例)	総務事務厚生課 健康管理班	平成31年1月4日	執務室	キャビネットの上にある箱をとるため、 キヤスター付き椅子を踏み台にして手を 伸ばしたところ、キヤスターが動いて椅子 から落ちそうになった。	・キャビネット上に箱を置いていた。 ・至急の照会で焦っていたため、安全な 道具であるか確認せず、近くにあるキャ スター付き椅子いすを使用したこと。	防止可能	・キャビネットの上に荷物を置かない。 ・使用頻度に応じた配置の検討 ・安全確認の徹底(不安定な物を使用 せず、安定した道具を使用。)
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

ヒヤリハット事例一覧表の活用方法

1 ヒヤリハットとは

「ヒヤリハット」とは、災害には至らなかったものの、一步間違えれば災害になっていたかもしれない「ヒヤリ」としたり「ハッ」とした経験（運が悪ければ怪我をしていたかもしれない事故や、不安全な状態又は行動によって驚いたこと）を意味します。これは、幸いにも怪我をしないで済んだというだけのことであって、災害の一步手前の状況と考えられます。

2 ヒヤリハット事例の活用目的

労働災害事例の統計で「1 : 29 : 300の法則」という分析結果があります。

重大災害を1とすると、その背後には29件の軽傷を伴う事故が起こり、300件の無傷事故（ヒヤリハット事例）が起きているというものです。

死亡事故等の重大災害もヒヤリハット事例であっても、根本的には同じ危険因子から発生し、労働災害をなくすためには、ヒヤリハットのように無傷事故の情報を重視し、その対策を図ることが重要になります。

ヒヤリハット事例を活用することは、実際に体験した危険の教訓を活かす活動ですので、危険に対する感受性を高めるとともに、安全意識の高揚や公務災害防止活動の活性化につながります。

3 ヒヤリハット事例の活用方法

別添「ヒヤリハット事例一覧表」の様式を使用し、一步間違えれば災害になっていたかもしれない「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりした事例を所属内で収集します。

各所属の（安全）衛生委員会等で一覧表を報告し、同じような事が起こらないように、工夫できることはないかなど、安全な職場づくりについて協議します。

4 ヒヤリハット事例一覧表の掲載場所

行政コミュニケーションシステム／リンク集／Ⅱ.健康管理★ストレスチェックはここから（健康管理のHP）／第5 労働安全衛生管理／6 公務災害防止